# 若山牧水記念文学館

Wakayama Bokusui Memorial Museum

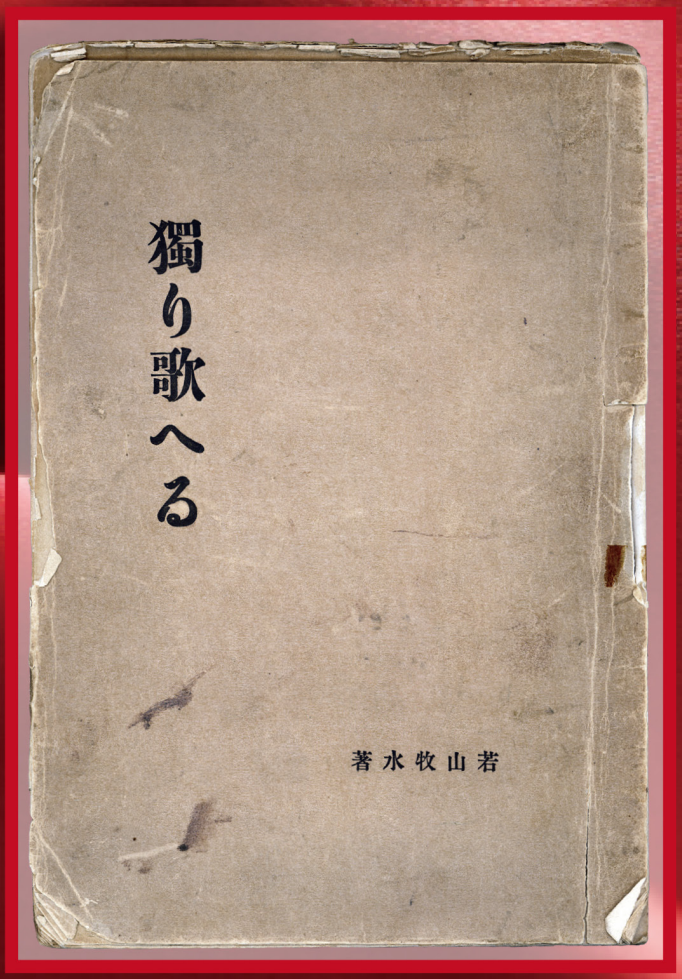
平成二十八年度企画展

## 第2歌集

# 獨り歌へる

## を読む

大恋愛から生まれた珠玉の哀歌に出会うひととき―




**平成29年2月18日（土）～4月23日（日）**

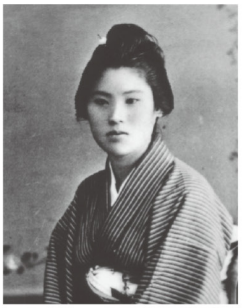
若山牧水記念文学館　〒883-0211 宮崎県日向市東郷町坪谷 1271 番地　TEL0982-68-9511　FAX0982-68-9512　www.bokusui.jp

# 第２歌集　『獨り歌へる』を読む

若山牧水 (1885-1928)

若山牧水は早稲田大学時代に園田小枝子と大恋愛をする。明治四十年春から四十四年の春まで、およそ五年間にわたる恋の様子は、歌集『海の聲』『獨り歌へる』『別離』『路上』の四作品をもってうかがい知ることが出来る。

『獨り歌へる』は明治四十一年春から四十二年夏――二人の恋が歓喜の絶頂から崩壊そして終焉へと向かう――物語が大きく変化する時期の歌を収録している。このことから、四歌集の中で最も牧水の内面の変化を明瞭に捉えた歌集といえる。そのほとんどが絶望の雨に打たれ、ただそこに在るしかない男の歌が寂しく並ぶ。



園田小枝子 (1883-1972)

それでも牧水は獨り歌いつづける。「よるべなき生命」を満たすのは、歌だけだと信じて。

今回は歌の背景をもとに、歌集全体を８つに区分して全５５１首を紹介する。折々の出来事を紹介しながら一人の青年が通り描いた恋愛の軌跡を辿り、歌が詠まれた当時の心情を考察する。

自然歌人、旅の歌人と称されることが多い牧水だが、熱き恋の葛藤を描いた恋愛歌人でもある。若き牧水が全身を賭して詠い上げた「命の砕片」を、存分に味わっていただきたい。

然し、戀（ラブ）といふ奴は一度は失敗してみるもいゝかも知れぬ、
そこで初めて味がつくやうな氣がするね、――悲惨なる負け惜しみかも知れぬ、

（明治四十二年七月十二日　平賀財蔵あて書簡より）

野のおくの夜の停車場を出でしときつとこそ接吻（きす）をかはしてしかな

なにものに欺かれ來しやこの日ごろくやし腹立たし秋風を聽く

山奥にひとり獣の死ぬるよりさびしからずや戀終りゆく

あめつちに獨り生きたりあめつちに斷えみたえずみひとり歌へり

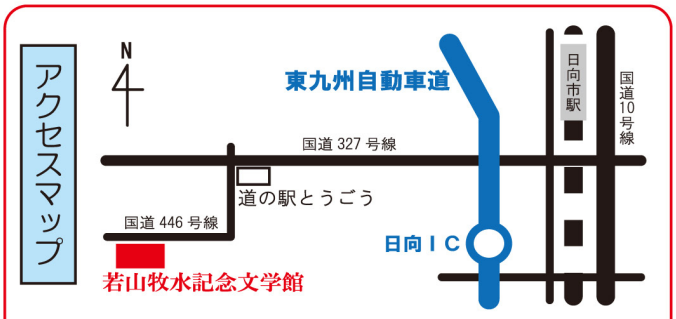
君がいふ戀のこゝろとわがおもふ戀のさかひの一すぢの河

## ここに注目！！

歌人で当館館長の伊藤一彦氏の論考「『別離』の世界――構成された連作歌集として読む（『牧水の心を旅する』収録／角川学芸出版）」を参考に、歌集内容を８つに区分。

歌集『獨り歌へる』は資金難から200 冊ほどしか印刷されなかったため、現存数が極めて少ない。

今回、複製品を制作して会場に展示。貴重な歌集を手に取って味わうことが出来る。



■利用あんない■
【開館時間】９：００～１７：００（入館は１６：３０まで）
【休 館 日】月曜日（祝日は除く）
【入 館 料】小・中学生／１００円　高校生以上／３００円
（２０名以上の団体は２割引）
【お問合せ】TEL ／ 0982-68-9511　FAX ／ 0982-68-9512
【公式ＨＰ】www.bokusui.jp